

# 松戸の丘の威風(下)

## 戸定邸&戸定歴史館

前号に引き続き千葉県松戸市の「松戸の丘」にある地元力を発見する。この地元力は、徳川家の所縁のもので、広くとらえれば価値はいつそう高まる。加えて話題の渋沢栄一とも重なる背景もある。

松戸駅から歩いて10分ほど、急ではない広い斜道の突き当りに石段がある。そこには、「戸定が丘歴史公園」という看板がある。小さく「日本の歴史公園」100選という小さなプレートも付けられている。次のコピーが気高い。「戸定邸はわが国で唯一の一般公開されている徳川家の住まいです。建物は国の重要文化財に指定され、庭園は日本庭園史上における価値が高く評価され、国の名勝に指定され

### 質素な隠居 住宅戸定邸

筆者は、2022年4月8

日に同地を訪ねた。桜も満開の陽春の天気の日であった。石段を登ると正面に戸定邸、右側手前に戸定歴史館がある。辺りには、程よい庭木が緑や季節の花の色どりをつくりに出している。地元力は「ひと、もの、こと」であるのが通例

である。今回の話題では、徳川昭武が浦賀に來航し、開港を迫った。徳川慶喜、渋沢栄一、昭武のた年に生まれている。水戸藩主徳川慶喜が15代将軍に就くのは1867年で、29歳の時、在位はちょうど1年で



The Illustrated London News (1867.12.21)に掲載された昭武

と、もの、こと」であるのが通例。10月26日の生まれというから、ペーである。今回の話題では、徳川昭武が浦賀に來航し、開港を迫った。徳川慶喜、渋沢栄一、昭武のた年に生まれている。水戸藩主徳川慶喜が15代将軍に就くのは1867年で、29歳の時、在位はちょうど1年で

で水戸徳川家を相続し、また水戸藩知事となったが、1871年に廃藩置県で水戸藩はなくなった。1876年にフィラデルフィア万博御用掛として渡米、その後、パリ留学を5年、さらに欧州旅行をしている。1883年5月には、水戸徳川家を甥の篤敬(昭武とパリ留学と欧州旅行を行った)に譲り隠居した。そして、翌年完成の戸定邸に移り住んだという。

昭武が住んだ戸定邸は、和風建築であるが、豪華でなく質素な隠居住宅である。世話係の居室もあり部屋数が20以上もあり多いが、廊下は狭く入り組んでいる。広大な和洋折衷式の庭園をもち、各部屋は庭に面している。趣味さんまの穏やかな暮らしには相応しい佇まいであったらうと想像される。

昭武は、松戸の自然が好きで、海外で覚えた写真撮影、狩猟、釣り、陶芸などの趣味を楽しんだようだ。書やスケッチも嗜んだ。戸定邸には、慶喜も遊びにして二人で写真撮影をしたという。

また、前回紹介した現・千葉大学園芸学部の土地では、西洋式園芸も行ったという。戸定邸のある高台からは眼下に江戸川、遠くには富士を眺めることが出来る。松戸は、東京にも近く意外といふところである。昭武や慶喜の二人は、重なる境遇を分かち合い、知恵者として穏やかに暮らすには、松戸は自然と情景を提供してくれたのだろう。季節々に訪ねてみるにはいいかもしれない。



案内看板

# 地元力発見!!

(31)

佐藤建吉 「洗楓座」代表

あり、昭武に関してあった。昭武は、1867年2月、水戸藩主徳川慶喜が15代将軍に就くのは1867年で、29歳の時、在位はちょうど1年で



鎧兜が無ければ武家の住家とは思えない普通の佇まいの戸定邸

また、前回紹介した現・千葉大学園芸学部の土地では、西洋式園芸も行ったという。戸定邸のある高台からは眼下に江戸川、遠くには富士を眺めることが出来る。松戸は、東京にも近く意外といふところである。昭武や慶喜の二人は、重なる境遇を分かち合い、知恵者として穏やかに暮らすには、松戸は自然と情景を提供してくれたのだろう。季節々に訪ねてみるにはいいかもしれない。

1950年山形生まれ。

東京都立大院卒。元千葉大学大学院工学研究科准教授

(金属疲労専攻)。金属疲労の研究のほか、他分野のテーマの研究開発に努める

とともに日本各地の地域おこし活動に従事する。ローカル鉄道と地元の酒蔵のコラボで地域再生を図る地酒

「鐵の道」の製造・販売を企画(すでに10件を超える銘柄を送り出している。一般

社団法人洗楓座代表。全国ふるさと大使連絡会議理事